

第1回 第2採択地区調査研究委員会 会議録

- 1 日 時 令和3年7月9日（金）15：00～16：00
- 2 会 場 大阪市教育センター 第1研修室
- 3 出席者
（委 員） 田矢委員、大畑委員、北野委員、土倉委員、松田委員、糸山委員
- 【事務局】 田野原総括指導主事、天井指導主事

- 4 議 題
- (1) 今年度の調査研究の経緯について
 - (2) 調査研究の経過について
 - (3) 調査の観点の確認
 - (4) 学校調査会報告
 - (5) 調査報告資料（案）について
 - (6) 事務連絡

5 議事録

【事務局】

ただいまより、第1回第2採択地区調査研究委員会をはじめます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

この地区調査研究委員会の進行をさせていただきます、指導部教育活動支援担当第2教育ブロック総括指導主事の田野原でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、会議に先立ちまして、本日まで出席いただいております皆様をご紹介させていただきます。

○大阪市PTA協議会、田矢 様。

○都島区担当教育次長、大畑 様。

○玉津中学校校長、北野 様。

○緑中学校 首席、土倉 様。

○第2教育ブロック 松田 担当部長。

○第2教育ブロック 糸山 首席指導主事。

そして事務局として、第2教育ブロック指導主事の天井と田野原でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日の配付物について、ご説明いたします。本日の次第の裏面をご覧ください。

・令和3年度使用教科用図書 調査の観点（第2採択地区版）

- ・令和3年度使用教科用図書 答申資料（第2採択地区）抜粋版
- ・令和3年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会調査集計結果抜粋版（第2採択地区）
- ・令和4年度使用教科用図書調査研究にかかる学校調査会調査結果【歴史的分野】【第2採択地区】
- ・令和3年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会（代表的コメント一覧）抜粋版【第2採択地区】
- ・令和4年度使用教科用図書調査研究にかかる学校調査会調査結果（代表的コメント一覧）【第2採択地区】
- ・【資料1】令和3年度使用中学校教科用図書採択にあたって【第2教育ブロックが大切にしたい観点】
- ・（案）新たに発行された教科用図書 調査報告資料（第2採択地区）
- ・《参考》令和4年度使用教科用図書選定資料（中学社会歴史的分野）定量的調査資料

こちらの資料は、大阪府教育委員会設置の「大阪府教科用図書選定審議会」の答申に基づき作成された「令和4年度使用教科用図書選定資料」の中から、学習指導要領に示されている各教科の目標等を踏まえ、各種目の特性に応じた教科用図書の特色が明らかになるよう客観的な数値データ等のみを抜粋したものです。本日協議の参考に準備させていただきました。

「教科書展示会アンケート」については、各地区で一部となっております、壁側の机の上に置いております。

最後に、本市職員以外の方と校長先生と教員の皆様には、「事務関係書類」を配らせていただいております。

以上となります。不足等はございませんでしょうか。

それでは、次第にあります「調査研究の経緯」につきまして、ご説明させていただきます。

令和3年3月30日付け文部科学省通知「令和4年度使用教科書の採択事務処理について」に「令和3年度においては、自由社の『新しい歴史教科書』について、教科用図書検定規則に基づき、検定審査不合格の決定の通知に係る年度の翌年度に行われた再申請により、令和2年度に文部科学大臣の検定を経て新たに発行されることとなったことから、無償措置法施行規則第6条第3号により採択替えを行うことも可能である。」及び「採択替えを行うか否かは、採択権者の判断によるべきものであること。その際、都道府県教育委員会において行う新たに発行されることとなった図書についての調査研究の結果のほか、令和2年度における採択の理由や検討の経緯及び内容等を踏まえて判断することも考えられること。」と示されておりました。そのことから、新たに発行されることとなった自由社の社会「歴史的分野」の教科書について、採択替えを行うか否かを教育委員会の判断に資する調査報告資料を作成するために、「大阪市立義務教育諸学校使用教科書調査研究委員会要綱」に基づいて、「調査研究委員会」を設置いたしました。

調査研究委員の皆様には、自由社の新しい歴史の教科書の優れている点や、特に工夫・配慮を要する点を明確にさせていただきながら、昨年度に採択いただいた教科書と比べ、第2地区に

ふさわしい教科書かどうか等調査研究していただき、調査報告資料を作成いただくこととなります。

次に、次第にあります「調査研究の経緯」につきまして、ご説明させていただきます。5月31日より、学校調査会で調査研究を行い、調査員による調査は、6月25日に全て終了いたしました。お手元の資料にはその調査結果が記載されております。大勢の教員で調査研究してきたものでございます。また、調査報告資料の案は、社会科専門である地区調査研究員の北野校長先生と土倉先生に大変お忙しい中、作成いただきました。

本日はその調査の結果を報告し、その後、調査報告資料の作成に向けて検討いたします。自由社1者のみとなりますが、ご協議の程よろしく願いいたします。

また、市内30か所の教科書センターにおいて「教科書展示会」が開催されています。その展示会にて、市民等からのアンケートを回収しております。7月1日現在のアンケート回収数は319通となっております。集まったアンケート用紙そのものは、ファイルに綴じておりますので、後ほどご覧ください。

以上が、「調査研究の経過」についての説明です。

あわせて、本日の予定について、ご説明いたします。

本日は、学校調査会がおこなった調査の結果と調査報告資料案について報告を受け、それをもとに第2地区調査研究委員会として、調査報告資料の作成に向けてご協議いただくこととなります。

また、本日は1種目1者ということで、自由社の教科書見本と昨年度採択された日本文教出版の教科書見本を机の上に置いておりますので、ご自由にご覧いただければと思います。

何分、限られた時間での協議となりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

ここまでで何か、ご質問等はございませんでしょうか？

それでは、次に調査の観点について確認いたします。今回の自由社の教科書については、公平性の観点から昨年度と同じ観点をもとに調査研究を進めてまいります。資料1をご覧ください。昨年度の第2地区では、第2地区の現状と課題を踏まえ、資料1にございます「第2教育ブロックが大切にしたい観点」を3点としました。「1 教員にとって教えやすい観点も大切だが、何より生徒にとって学びやすく、わかりやすいということ。(生徒本位の目線の重視)」「2 基礎学力の定着はもとより、興味・関心をもって発展的な課題に取り組む動機づけとなる構成になっており、家庭においても自発的に学習しやすいということ。(第2教育ブロックの地域特性の考慮)」「3 高等学校への進学等、3年間の中学校生活以降の進路選択に向けて、着実に学力を伸ばさせることができる内容になっているということ。(公教育としての使命の重視)」以上の3点でございます。これらをもとに、各種目における「調査の観重点化」を行いました。歴史については、調査の観点の6ページをご覧ください。次の5つの観重点を重点化しております。

まず、全種目共通で設定しました項目1「大阪市教育振興基本計画等との関連」の②と④、

項目3「その他（外的要素、構成、配列、資料等）の⑥、そして歴史的分野では、項目2（内容の取扱い）から④と⑥の計5つを第2教育ブロックの重点化した観点としております。

お手元の「調査報告資料」は今ご説明さしあげた昨年度の調査の観点をもとに作成された報告書となります。何かご質問等はございませんでしょうか？

それでは、「学校調査会」の結果について報告いたします。

令和4年度使用教科用図書調査研究にかかる学校調査会調査結果【歴史的分野】（第2採択地区）をご覧ください。左側の自由社については、第2地区の重点化した観点では特に優れている点は25ポイント、工夫配慮を要する点は32ポイント、全観点では、特に優れている点は80ポイント、工夫配慮を要する点は78ポイントとなりました。表の右側には、昨年度第2地区で採択された日本文教出版の教科書について示しています。第2地区の重点化した観点では特に優れている点は50ポイント、工夫配慮を要する点は8ポイント、全観点では、特に優れている点は110ポイント、工夫配慮を要する点は20ポイントとなっております。学校調査会の結果を見ますと日本文教出版に優位性が見られました。コメント一覧についても「令和3年度使用教科用図書選定にかかる学校調査会（代表的コメント一覧）抜粋版」に昨年度採択されました「日本文教出版」を含め、昨年度検定合格したすべての発行者のものが記載されております。また、「令和4年度使用教科用図書調査研究にかかる学校調査会調査結果（代表的コメント一覧）」には、今回検定合格しました自由社のものが記載されておりますのでご覧ください。

続いて、「調査報告資料（案）」の報告に入ります。

調査報告資料案については、専門教科でいらっしゃる北野校長先生と土倉先生に事前にお忙しい中、作成いただきました。調査報告資料案については、事務局から作成いただいた調査研究委員の先生方に代わり天井よりご報告させていただきます。昨年度と同様に、報告書の中で重点化した観点を反映している「総評」を中心にご報告いたします。お手元にあります「調査報告資料（案）」と「調査の観点」をご準備していただきますようお願いいたします。

なお、天井からの報告のあと、「学校調査会集約結果」や見本本をご覧くださいたく時間も設けますことを申し添えます。それでは、天井主事、よろしく願いいたします。

【事務局】

それでは、報告資料の総評欄をご覧ください。この発行者の「特に優れている観点」を「項目1の観点④」「項目2の観点⑥」「項目3の観点⑥」といたしました。

また、「特に工夫・配慮を要する観点」を「項目1の観点②」「項目2の観点④」といたしました。

「特に優れている観点」の中でも、「項目3の観点⑥」に特徴がみられます。「復習問題のページ」で基礎的な用語、知識の定着を図る問題を配置し、「対話とまとめ図のページ」で時代の特徴を大観するなど各時代の学習内容を振り返ることができるよう工夫されています。

「特に工夫・配慮を要する観点」としましては、「項目2の観点④」本文中の表現に生徒の発達段階において理解が困難な表現があり、配慮を要すると思われれます。

以上でございます。

【事務局】

なお、一般社団法人教科書協会より令和4年度使用の自由社「新しい歴史教科書」について、教師用指導書及び教科書準拠周辺教材の作成は未定であると連絡がありましたことを申し添えます。

北野校長先生、土倉先生から特に何か説明の補足がございますでしょうか。

【委員】

見本本の事務局から伝えていただいた報告書について、特徴あるところはかなり評価できる部分もあるのですが、特に工夫配慮を要する点でいえば、子どもたちが理解するには困難な言葉がかなり使われている教科書であります。教える側としても、語句の説明をすることで授業の時間を費やすこととなります。また、指導書を見たうえで指導するというのが現場の流れであります。こういった要点を伝えるのか、どのように適切に伝えるのかというところを指導書で確認して授業を行うので、現在作成の予定がないということであれば、教員も困惑するかと思います。

【委員】

見本本の全ページを確認しました。ページ全体の色合いは、落ち着いており、子どもたちが取り組みやすいように配慮されているのですが、フォントや資料が見つらいというところが教える側としては、「この資料のどこを見なさい。」という指示に時間がかかってしまうだろうという感じがあります。先ほど、北野校長から発言があったように、大人にとってはわかる表現であっても、特に1年生から歴史を学ぶので、前半部分で難しい表現があるとその段階で教科書を読み進めることができない可能性もある。そういったところが、指導する側としては難しいかと思う。子どもたちは、教科書を用いて家庭学習するので、きちんとすべての内容を理解できる文章表現であったり、文字の数であったり、そういった配慮があればよかったですと思います。

【事務局】

ありがとうございます。それでは、教科書を確認いただくための時間をとりたいと思います。10分程度と考えておりますが、よろしいでしょうか。

(見本本など資料の確認)

【事務局】

時間となりました。よろしいでしょうか。

それでは質疑の時間を取りたいと思います。教科の内容的なことについては、専門教科の調査研究委員からお答えいただき、教科内容以外、採択の仕組み等については、事務局からお答えさせていただきます。ご質問・ご意見などございましたらお願いいたします。感想でも結構でございます。

【委員】

質問というか、総評の部分のコメントの確認をさせていただきたい。大きく5つあげられていますが、後半の2つ、単元によっては資料が乏しく学びを深めにくいとか、表現が難しいとあります。ページもあげてもらっていますが、参考にどの部分がこれに当たるのか、簡単にご説明いただけますか。

【委員】

資料が乏しい部分があるという点では、総評に示しているページでいうと、2、3ページ「歴史を

学ぶ意義」に日本列島や写真を掲載しているが、注釈がほとんどなく、どこの写真であるのかがわかりにくい。子どもたちに説明するにも、ポイントを絞りにくく、子どもにとっては難しいかと思いません。

また、33 ページに教科書の表紙にも掲載されている土偶が掲載されているが、遺跡の場所などが示されていない。特徴的な土偶ですので、子どもたちにどこで出土されたかなどを示してあげたい。是川遺跡の場所を示すことができていない。続いて 120 ページです。関ヶ原の合戦図屏風が細かすぎて、旗印を見ればわかるかもしれないが、もう少し注釈できるような資料にしてもらった方がよい。細かすぎてわかりにくい。185 ページもあげております。

【委員】

大日本帝国憲法における立憲国家の仕組みという図が、字が細かすぎて見にくいので、もう少し大きく整理したものの方がよいと思います。

【委員】

ふりがなもふってありますが、見づらいところもあります。拡大するなり、大きな文字を使用する方が見やすくなる。生徒が理解するには困難な表現としては、24、25 ページです。非常に内容が難しく、大学で学ぶような内容ではないかなと思います。例えば、24 ページ下から 8 行目「始皇帝は、文字、貨幣、度量衡を統一し」とあるが、度量衡という言葉は中学生にとっては難しい。また、25 ページに「中華思想と冊封体制」とあるが、「冊封体制」という語句も今までには取り扱っていない語句になります。また、中華思想を表現する図にある「北狄」「西戎」という言葉も私が大学時代に学んだ言葉である。「南蛮」や「東夷」は「後漢書東夷伝」、「南蛮」は「南蛮文化」で出てきますが、「北狄」「西戎」の説明は難しいです。28、29 ページでは宗教が取り扱われていて、「アラーの啓示を受ける預言者ムハンマド」という図がありますが、イスラム教は偶像崇拝を否定していて、また、さまざまなルーツを持つ生徒もおりますので、配慮が必要かと思えます。高等学校で習うような、また一般的にはあまり使用されない表現や、非常に難しい表現がほかにもたくさんあるので、生徒にとっては理解が難しいかと思えます。

【委員】

自由社と日本文教出版を比べたときに、私が家で子どもに教えるとしたら日本文教出版を選びます。自由社は文字の羅列ばかりであり、教科書に書き込むページでいうならば 127 ページにある形式等では学習意欲がわきにくいかと思えます。日本文教出版は 10 ページ、36 ページなどの形式で、自ら書き込めるページがたくさんある。家庭で勉強するとき確認しやすい。わかりやすい。自由社にはそういう観点がないと考えます。日本文教出版では絵や写真がたくさんあるので想像を掻き立てられると思うが、自由社は言葉の羅列ばかりで難しい言葉も多く、いかがなものかなと思いました。

【事務局】

ありがとうございました。その他、ご意見ご質問ございましたらお願いします。

もしよろしければ、大畑委員、ご意見ございましたらお願いいたします。

【委員】

昨年度に引き続き、新しい教科書がどうかという選定ですので、日本文教出版よりもここが配慮を要する、ここが日本文教出版より優れているという点を確認して決めるのが筋かなと思います。今、

北野委員から丁寧な説明があったように「資料が乏しい。」「発達段階において理解が難しい言葉がある。」というところで、私自身も言葉を追ったのですが、「廃仏毀釈」など聞き慣れない言葉が出てきたりして、なかなか難しいと思います。北野委員、土倉委員のおっしゃる通りだなと思います。

そこで、1つ確認したいことがあります。学校調査会では、2内容の取扱いの②「我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解することができるよう配慮されているか。」というところが、日本文教出版より自由社がすぐれているとのことでしたが、このあたりが自由社の方が評価されているというのがわかるように教えていただきたいです。

【委員】

流れがわかりやすいというのは、各単元のあとにまとめ図のページや振り返りの学習のページがある点かと思います。例えば102ページをご覧ください。復習問題のページがあって、一問一答で学んだ内容を確認する。そして時代の特徴を考えるページで項目があり、会話形式でまとめを学習し、その下のまとめ図からの次の単元への予告編とつながります。こういった流れは自由社だけだったのかなと思います。文字も大きめで大変見やすいと思われます。

【委員】

このあたりが学校の先生にとって評価が高かったのがよくわかりました。

【委員】

教科書全ページにわたって左側のページ下部に年表が記載され、今どの時代の学習を進めているのかがピンポイントでわかるのが特徴的で活用できる部分かなと思います。

あとは、日本の優れた歴史文化を海外に発信しようとする意識は感じられる。神話に豊富にページを割いて記載されていますが、あくまで神話であり史実ではないということを踏まえて子どもたちに伝えていく必要があるのかなと思います。

また、国土の部分でいいますと、172ページにある北方領土の取扱いで、地図を見ても、プリントがずれていたりするなど、領土問題を語るには国際問題でもあり、丁寧に扱うべきだと思います。

【事務局】

ありがとうございました。ほかご意見よろしいでしょうか。

糸山委員、お願いします。

【委員】

日本文教出版との比較という点で見ると、日本文教出版はどのページにも学習課題がきちんと示されており、「深めよう」そして最後に「確認」というのがどのページにもあり、先生方が授業をするにあたり「めあて」「まとめ」と進めやすい教科書になっていると感じました。また、他の委員が言ったように、子どもたちがあとで振り返ったときにわかりやすい。復習しやすいと思いました。自由社にはそのような点がなく、先生のみならず子どもたちにとっても使いやすいのが日本文教出版だなと感じました。

【委員】

さきほどの「学習課題」に関しては、自由社は単元のタイトルの下に記載されているのが学習課題かと思われますが、文字が小さくてわかりにくいです。また、その文字のフォントも教科書の途中で変わっていたり、一貫性がなくデザイン上の問題ではありますが、その部分も配慮が必要かと思いま

す。見開きページ、右の下「チャレンジ」のところで確認となってくるのかと思います。めあてがタイトルの下に設定され、見開きの右下にこの単元で学んだことを説明してみよう、考えてみようという設定になっていますが、たとえ良い発問が用意されていたとしても、子どもたちがすぐに気づくことができないところが使いにくい点だと思っています。

【事務局】

ありがとうございました。

昨年度の「答申資料」の内容と今、ご報告いたしました「調査報告資料」から、第2地区調査研究委員会として、第2地区の教科書として、採択替えを行う必要があるかどうか「優位性」についても確認していきたいと思っています。みなさんのご意見を伺っておりますと、現在使用中の教科書である「日本文教出版」に優位性がみられるというご意見であったかと思っています。

ほかにご意見ございますでしょうか。

【事務局】

自由社の教科書にも「めあて」等の記載はあるものの、教科書で使用されている文言が難しく、授業を行うにあたっては説明が必要となる。であれば、やはり指導書が必要ではないのかというご意見であったかと思っています。第2地区では「生徒たちにとってわかりやすい教科書」という観点があり、その観点からすると、少し難しいとの意見もありました。

第2地区としては、日本文教出版に優位性があると確認したということによろしいでしょうか。

【委員一同】

異議なし。

【事務局】

ありがとうございます。

これまでの協議結果につきましては、8月10日（火）の教育委員会会議に事務局からまとめて報告をさせていただくことになっております。

報告させていただく内容は、1つ目として確定いただきました「調査報告資料」について、2つ目として調査報告資料から読み取れる、採択替えを行うか否かの優位性について、報告させていただきますことをお知りおきください。

続いて「調査研究委員会要綱」についてです。

調査研究委員の皆様の任期につきましては、第5条に「委員の任期は、教育委員会より調査依頼を受けた日から教科書の採択替えを行うか否かを決議するまでとする。」とあります。今後、8月10日の教育委員会会議において、本日ご確認いただきました内容を報告し、8月末の教育委員会会議において「採択替えを行うか否かを決議」される予定でございます。

また、委員会要綱第4条の4には、「委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。」とありますので、合わせてよろしく願いいたします。

以上でございます。

長時間のご審議、ありがとうございました。最後に、事務連絡をさせていただきます。

まず、1点目は、提出物についての連絡でございますが、すでに皆様にご提出いただきましたので省略いたしますが、ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

最後に、本日、準備させていただきました資料につきましては、お名前のシールを貼ってある封筒

にそのままお入れ置きくださいますようお願いいたします。

以上で、第1回第2地区調査研究委員会を終了いたします。長時間に渡るご協議、ありがとうございました。